

令和元（2019）年度
外国人留学生実態調査の概要

令和2（2020）年1月

栃木県産業労働観光部 国際課

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査設計	1
3. 調査項目	1
4. 回収結果	1
5. 調査委託先.....	1
6. 報告書中の表記について.....	2
II. 外国人留学生実態調査（概要）	3
1. 回答者の属性について.....	3
2. 留学のきっかけについて.....	4
3. 日常生活について.....	6
4. 生活状況について.....	8
5. ことばについて	11
6. 災害時・緊急時の対応について.....	12
7. 地域での交流について.....	13
8. 卒業後の進路について.....	14
9. 国際交流団体について.....	15

I. 調査の概要

1. 調査の目的

平成 30（2018）年 12 月末現在、栃木県内に 3,295 人の外国人留学生在が居住しており、それらの外国人留学生在はグローバル人材としての活躍が期待される貴重な存在である。県内の外国人留学生在のニーズや活動状況を把握し、各種支援策の充実に努めるとともに政策形成の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査設計

(ア) 調査対象：栃木県内の高等教育機関等（大学、短期大学、高等専門学校、専修学校）
に在籍する外国人留学生在

(イ) 対象機関数：大学 10 校、短期大学 6 校、高等専門学校 1 校、専修学校 17 校

(ウ) 調査方法：県内の高等教育機関等を通じた調査票配布・郵送による回収

(エ) 調査票言語：日本語と外国語の 2 種類を用意

※外国語は、英語、中国語、ベトナム語。

(オ) 調査期間：令和元（2019）年 7 月 18 日（木）～8 月 30 日（金）

3. 調査項目

- ①回答者の属性
- ②留学のきっかけについて
- ③日常生活について
- ④生活状況について
- ⑤ことばについて
- ⑥災害時・緊急時の対応について
- ⑦地域での交流について
- ⑧卒業後の進路について
- ⑨国際交流団体について
- ⑩その他

4. 回収結果

(ア) 有効発送数：2,975 通

(イ) 回収数：495 通

(ウ) 回答率：16.6%

5. 調査委託先

株式会社富士通総研

6. 報告書中の表記について

- ・ 本報告書では、集計結果の数値を小数点以下第2位で四捨五入している。そのため、各回答の合計が100%に一致しないことがある。
- ・ 単一回答の設問は円グラフ、複数回答の設問は棒グラフで表している。
- ・ 複数回答の設問については、回答比率の合計は100%を超える。
- ・ グラフ中の「n」は回答者数を示す。グラフおよび表は、基本的に回答数の多いものから順に並べ替え表記している（「その他」等を除く）。
- ・ 文中の「前回調査」とは、「県内外国人留学生実態調査」（平成27（2015）年3月）を示す。

Ⅱ. 外国人留学生実態調査（概要）

1. 回答者の属性について

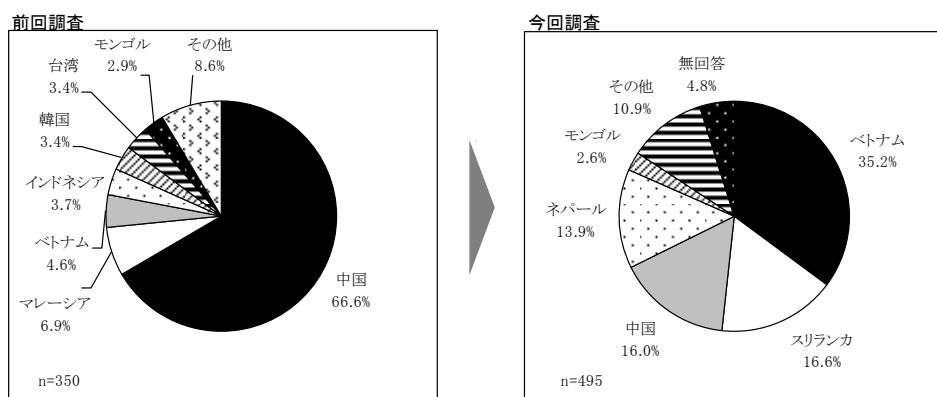
(1) 国籍

◇回答者の国籍は、上位3か国が「ベトナム」(35.2%)、次いで、「スリランカ」(16.6%)、「中国」(16.0%)となっている。

・前回調査（平成26（2014）年度）との比較

上位3か国は、前回最も多かった中国が3番目となり、ベトナムとスリランカの比率が大幅に増加した。

【Q】国籍



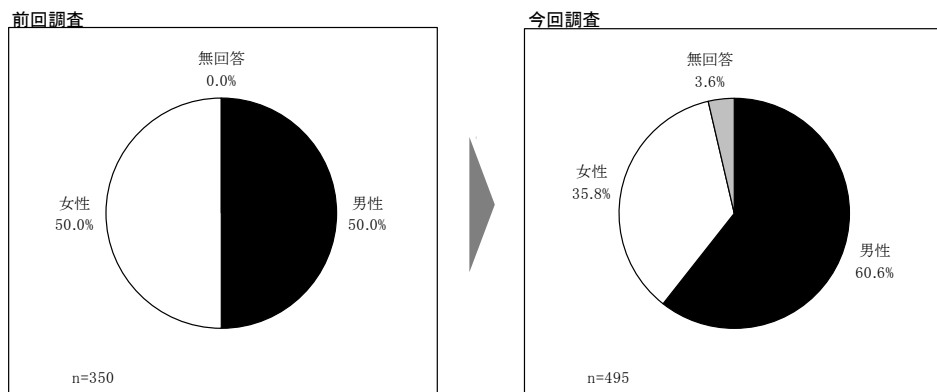
(2) 性別について

◇性別の内訳は、「男性」が60.6%、「女性」が35.8%となっている。

・前回調査（平成26（2014）年度）との比較

性別の内訳については、今回調査では男性が約6割と女性より多くなった。

【Q】性別

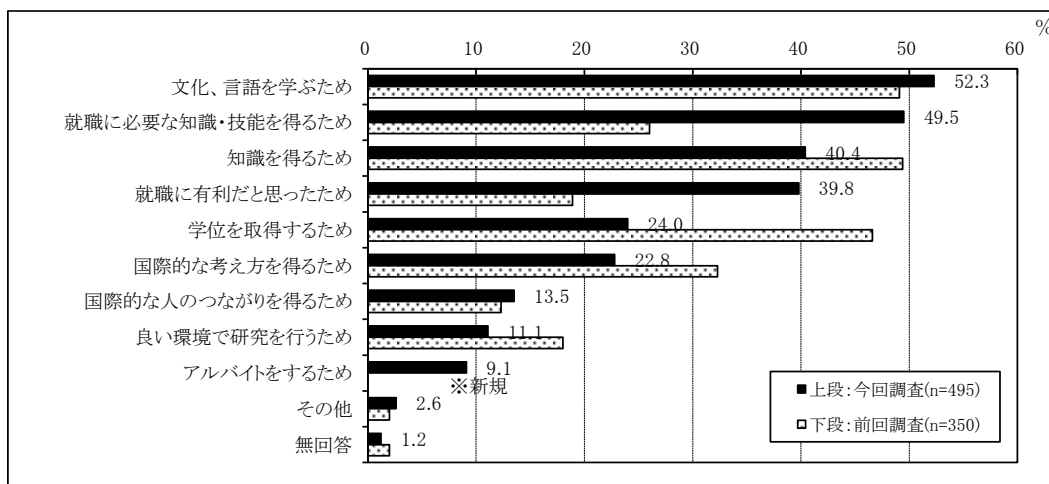


2. 留学のきっかけについて

(1) 留学の目的

◇留学の目的は、「文化、言語を学ぶため」が52.3%と最も多い。次いで、「就職に必要な知識・技能を得るため」(49.5%)となっている。

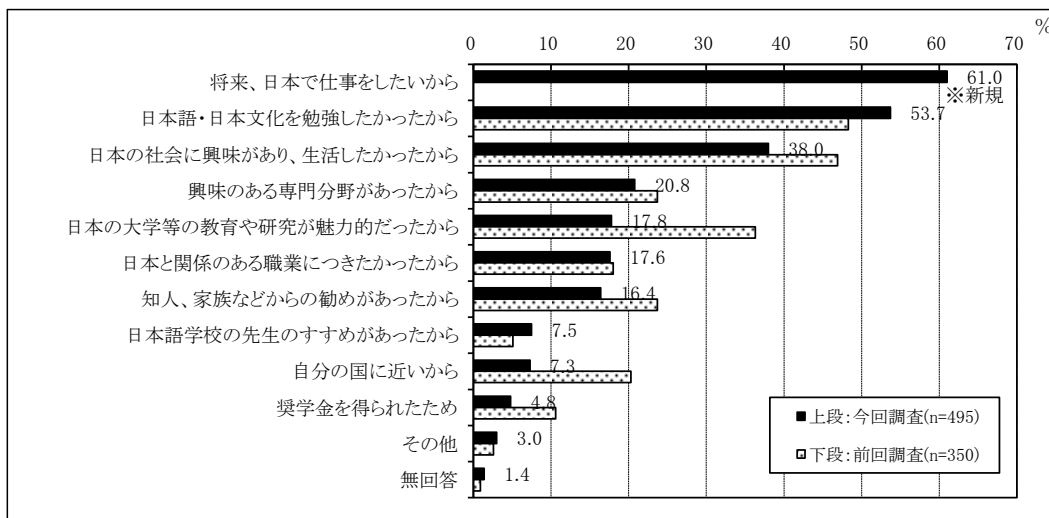
【1-Q2】 留学の目的はなんですか (3つまで)。



(2) 留学先の選定理由

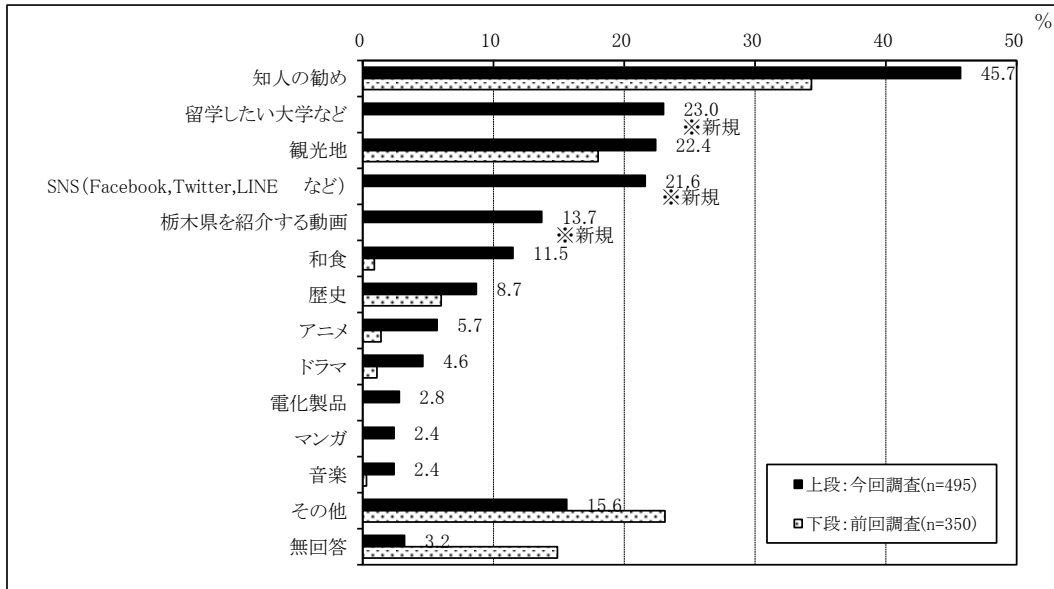
◇留学先に日本を選んだ理由としては、「将来、日本で仕事をしたいから」が61.0%と最も多い。次いで、「日本語・日本文化を勉強したかったから」(53.7%)となっている。

【1-Q3】 留学先に日本を選んだ理由はなんですか (3つまで)。



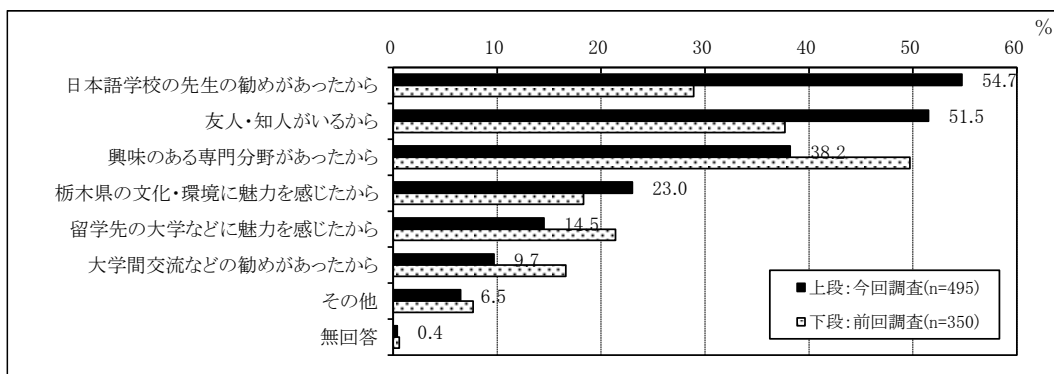
◇栃木県を知ったきっかけは、「知人の勧め」が45.7%と最も多い。次いで、「留学したい大学など」(23.0%)となっている。

【1-Q6】 栃木県を知ったきっかけはなんですか (3つまで)。



◇栃木県の学校を選んだ理由としては、「日本語学校の先生の勧めがあったから」が54.7%と最も多い。次いで、「友人・知人がいるから」(51.5%)となっている。

【1-Q7】 栃木県の学校を選んだ理由はなんですか (3つまで)。

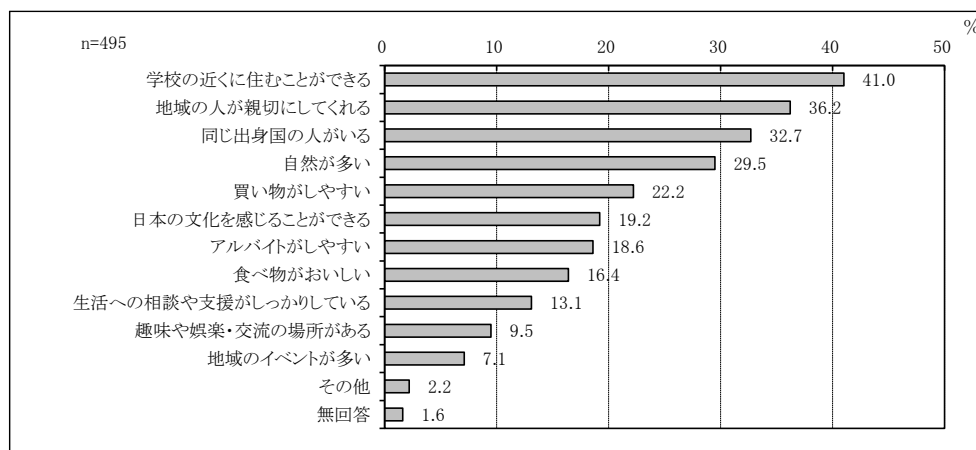


3. 日常生活について

(1) 地域での生活

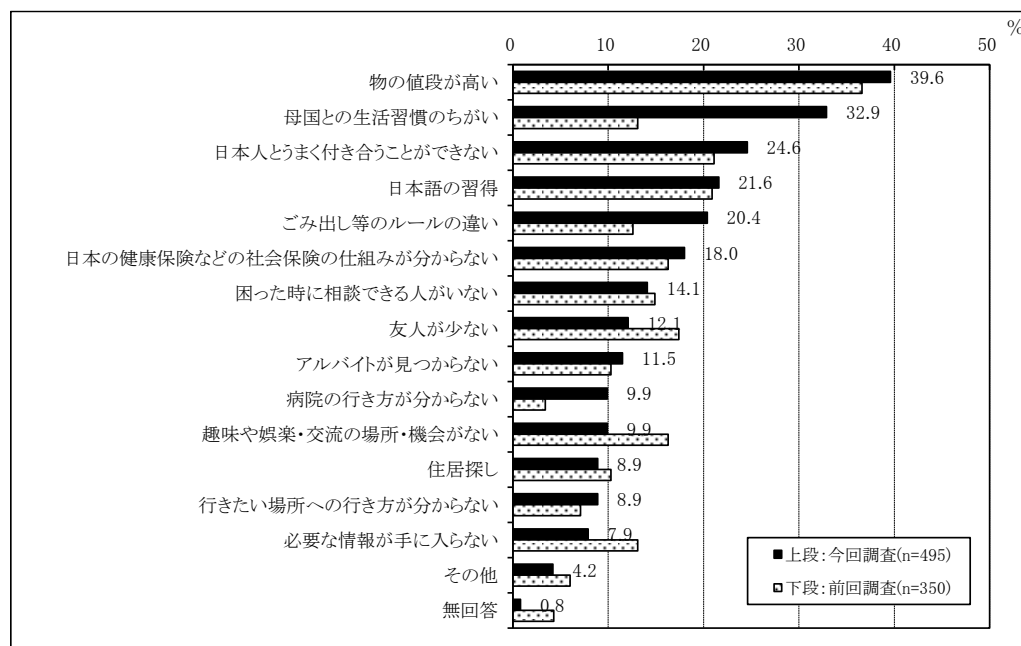
◇地域（栃木県）での生活で良かったと感じることは、「学校の近くに住むことができる」が41.0%と最も多い。次いで、「地域の人が親切にしてくれる」(36.2%)となっている。

【2-Q1】地域（栃木県）の生活で良かったと感じることはなんですか（3つまで）。



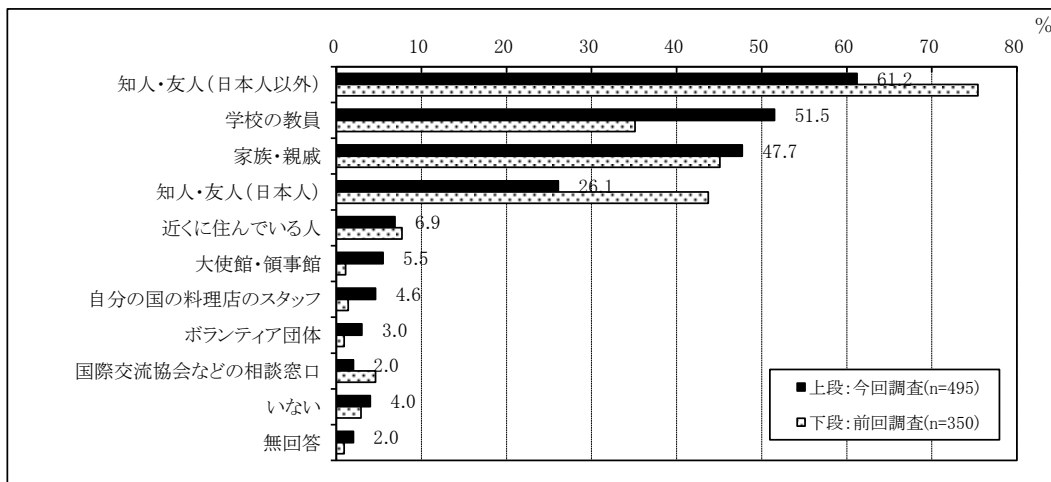
◇生活で困ったことや不満としては、「物の値段が高い」が39.6%と最も多い。次いで、「母国との生活習慣のちがいが」(32.9%)となっている。

【2-Q2】生活で困ったことや不満に感じることはなんですか（3つまで）。



◇日常生活で困ったときの相談相手としては、「知人・友人（日本人以外）」が61.2%と最も多い。次いで、「学校の教員」（51.5%）となっている。

【2-Q5】日常生活で困った時の相談相手を教えてください（3つまで）。

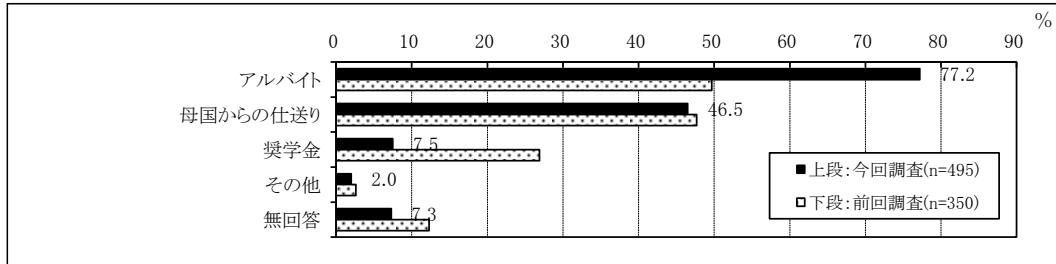


4. 生活状況について

(1) 収支

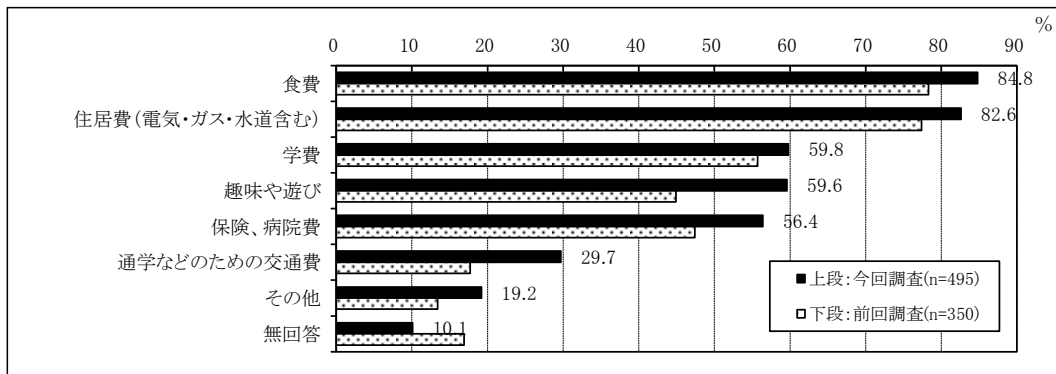
◇生活費の収入源は、「アルバイト」が77.2%と最も多い。次いで、「母国からの仕送り」(46.5%)となっている。

【3-Q1】何で収入を得ていますか（複数回答）。



◇生活費の支出用途は、「食費」が84.8%と最も多い。次いで、「住居費（電気・ガス・水道含む）」(82.6%)となっている。

【3-Q2】何にお金を使っていますか（複数回答）。



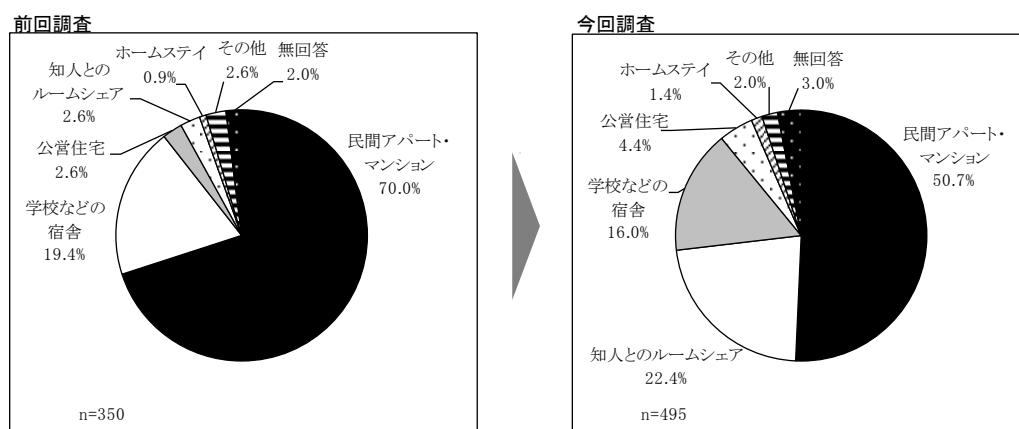
(2) 住居について

◇現在の住居は、「民間アパート・マンション」が50.7%と最も多い。次いで、「学校などの宿舎」(16.0%)となっている。

・前回調査(平成26(2014)年度)との比較

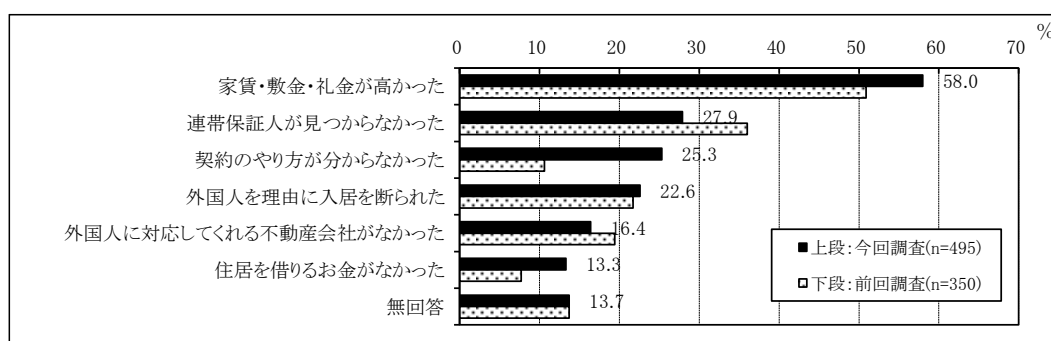
前回同様に「民間アパート・マンション」が最も多く、約5割を占めている。前回4番目であった「知人とのルームシェア」が19.8ポイント増加し2番目となった。

【3-Q6】現在の住居について教えてください。



◇住居を探すときに困ったことは、「家賃・敷金・礼金が高かった」が58.0%と最も多い。次いで、「連帯保証人が見つからなかった」(27.9%)となっている。

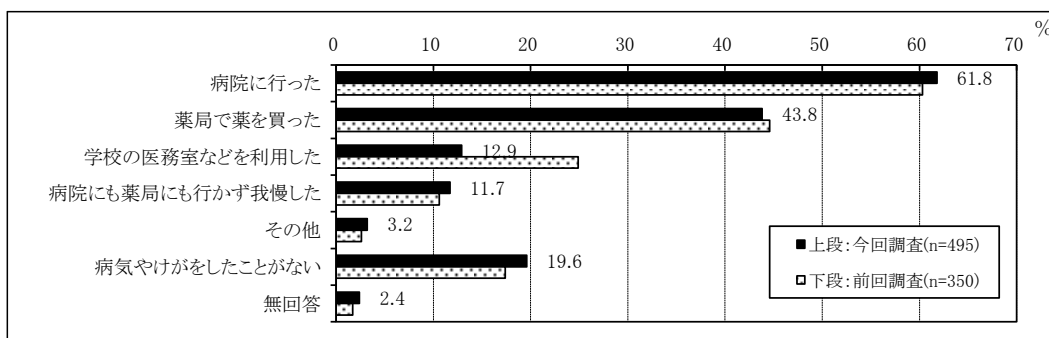
【3-Q7】現在の住居を探すときに、困ったことはなんですか(3つまで)。



(3) 病気・けが

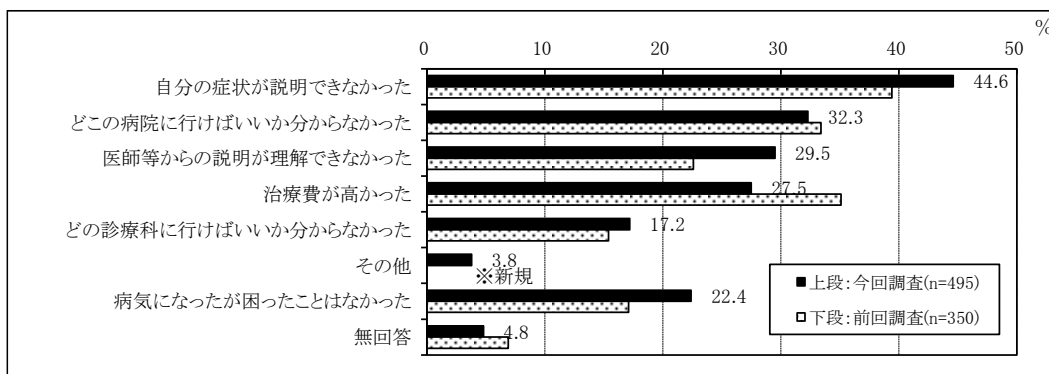
◇病気やけがをした時の対応としては、「病院に行った」が61.8%と最も多い。次いで、「薬局で薬を買った」(43.8%)となっている。

【3-Q8】日本で病気やけがをしたときの対応を教えてください(3つまで)。



◇病気のとくに困ったことは、「自分の症状が説明できなかった」が44.6%と最も多い。次いで、「どこの病院に行けばいいか分からなかった」(32.3%)となっている。

【3-Q11】病気のとくに困ったことは、なんですか(3つまで)。

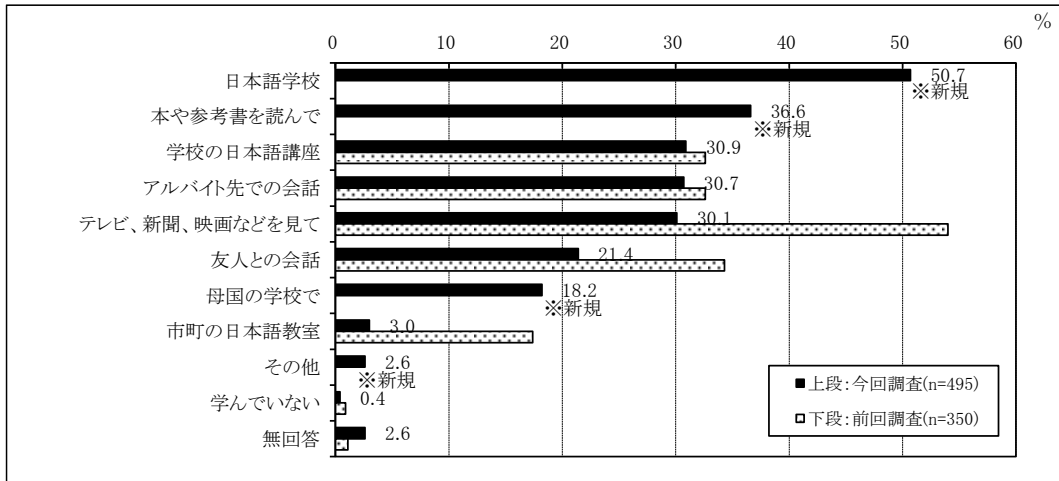


5. ことばについて

(1) 日本語の学習方法

◇日本語の学習方法としては、「日本語学校」が50.7%と最も多い。次いで、「本や参考書を読んで」(36.6%)となっている。

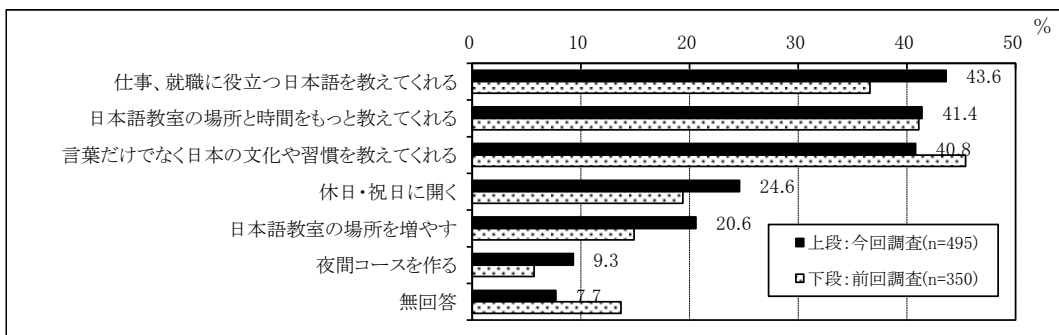
【4-Q3】どのような方法で日本語は学びましたか。または学んでいますか(3つまで)。



(2) 日本語教室

◇日本語教室のさらなる利用に向けては、「仕事、就職に役立つ日本語を教えてくれる」が43.6%と最も多い。次いで、「日本語教室の場所と時間をもっと教えてくれる」(41.4%)となっている。

【4-Q4】県内にいくつか日本語教室がありますが、どのような工夫をすれば利用しますか(3つまで)。

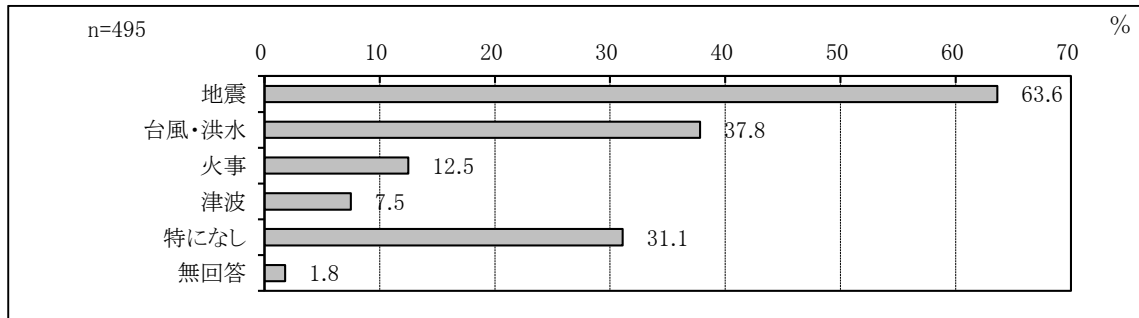


6. 災害時・緊急時の対応について

(1) 災害経験と対策

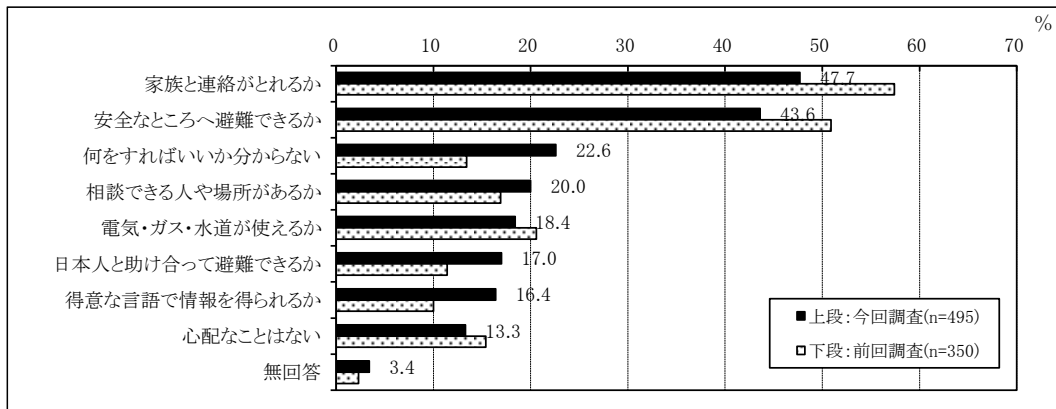
◇災害経験については、「地震」が63.6%、「台風・洪水」が37.8%となっている。

【5-Q1】災害経験はありますか（3つまで）。



◇災害時に心配なことは、「家族と連絡がとれるか」が47.7%と最も多い。次いで、「安全なところへ避難できるか」(43.6%)となっている。

【5-Q2】災害時に心配なことはありますか（3つまで）。

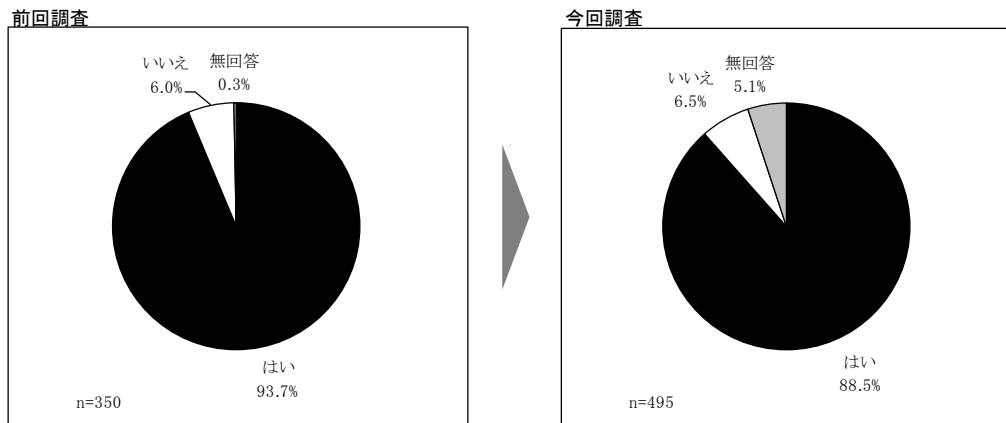


7. 地域での交流について

(1) 地域での交流活動

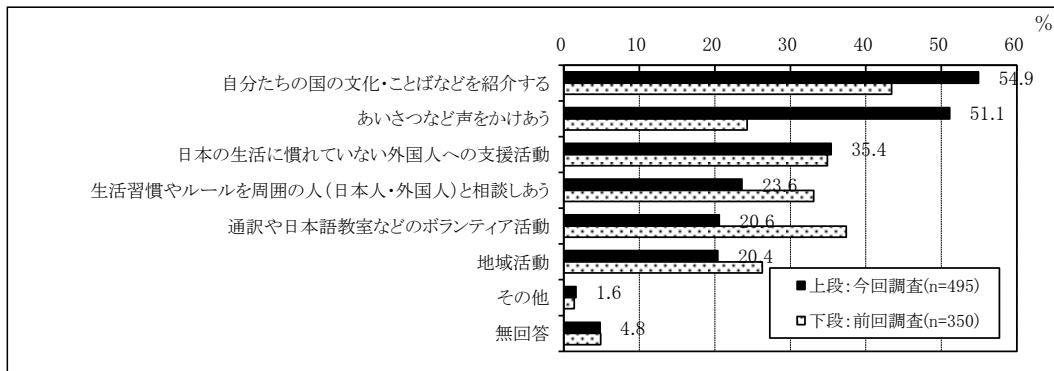
◇地域の日本人との交流希望は、「はい」が88.5%、「いいえ」が6.5%となっている。
 ・前回調査（平成26（2014）年度）との比較
 前年に比べ「はい」は5.2ポイント減少しているものの、約9割を占めている。

【6-Q1】地域の日本人と交流を希望しますか。



◇地域で自分ができると思う活動としては、「自分たちの国の文化・ことばなどを紹介する」が54.9%と最も多い。次いで、「あいさつなど声をかけあう」(51.1%)となっている。

【6-Q4】あなたができると思う活動はなんですか（3つまで）。



8. 卒業後の進路について

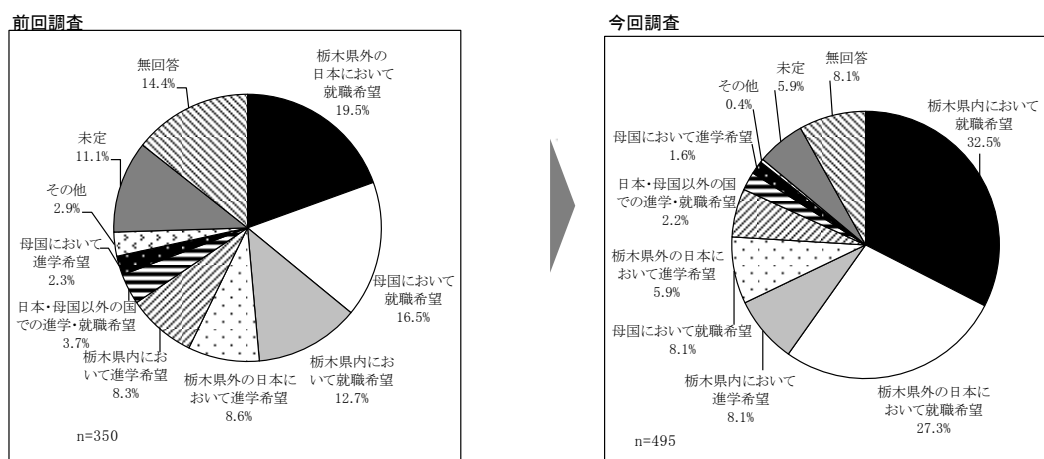
(1) 卒業後の希望進路

◇卒業後の希望進路は、「栃木県内において就職希望」が 32.5%と最も多い。次いで、「栃木県外の日本において就職希望」(27.3%)となっている。

・前回調査（平成 26（2014）年度）との比較

前回 3 番目であった「栃木県内において就職希望」が 19.8 ポイント増加し、最も多くなった。また、前回最も多かった「栃木県外の日本において就職希望」が 7.8 ポイント増加し、2 番目となった。

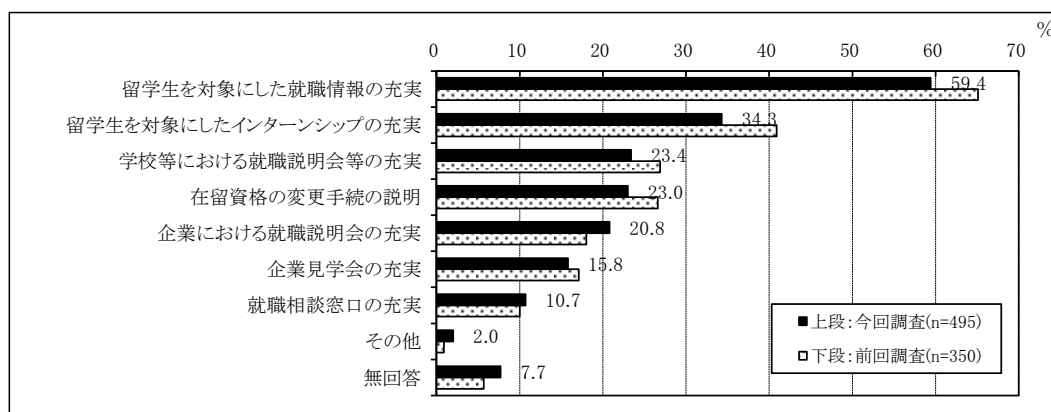
【7-Q1】卒業後の進路はどうしたいですか。



(2) 就職活動の支援策

◇就職活動において望む支援策は、「留学生を対象にした就職情報の充実」が 59.4%と最も多い。次いで、「留学生を対象にしたインターンシップの充実」(34.3%)となっている。

【7-Q4】就職活動に関して望む支援策はありますか（3つまで）。

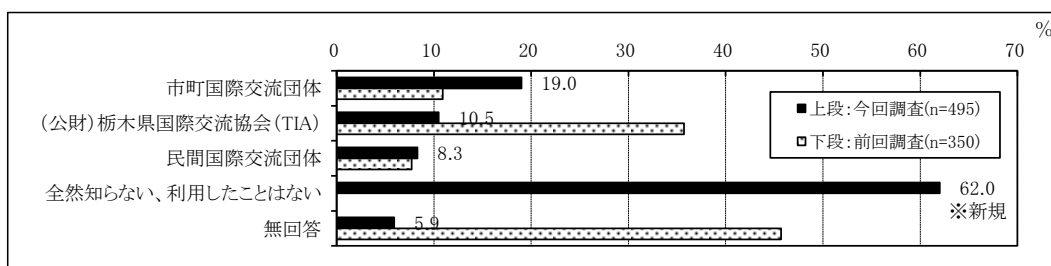


9. 国際交流団体について

(1) 国際交流団体

◇知っているまたは利用したことのある国際交流団体は、「市町国際交流団体」が19.0%と最も多い。次いで、「(公財) 栃木県国際交流協会 (TIA)」(10.5%)となっている。一方、「全然知らない、利用したことはない」が62.0%となっている。

【8-Q1】あなたが知っている、利用したことのある国際交流団体はありますか (2つまで)。



◇国際交流団体に望むことは、「日本人との交流会などを増やす」が41.0%と最も多い。次いで、「外国人と日本人との意見交換の場」(39.6%)となっている。

【8-Q4】国際交流団体に望むことはありますか (3つまで)。

